

血液浄化による健やかな老い (healthy aging) 成就の可能性

阿岸鉄三

平成 26 年 4 月 12 日/北海道「北海道透析医学会学術講演会」

世界の先進国における共通の社会問題は人口の高齢化である。加齢について当代医学的に考える場合の一般的立場は、抗加齢 (anti-aging, アンチエイジング) であろう。アンチエイジングは、欧米諸国、とくに、米国におけるキリスト教思想にもとづくと考えられる。日本では、心情的に老化 (加齢) も寿命がきたときの死さえも受け容れている、と考えられる。ヘルシー・エイジングこそ、日本の心情的究極目標であり、生きることは死ぬことが前提である。そして、世俗的表現の PPK (ピンピンコロリ) こそが目標。誰にも迷惑をかけないで、朝起きたら寝床の中で……。世は、社会の高齢化とともに健康志向時代である。

高齢透析患者が意外と長生きすると感じる透析現場の臨床スタッフが結構いるようである。実際、科学的エビデンスがある。十数年前、維持透析患者における尿毒症物質、あるいは、透析アミロイド症の責任 (関連) 物質として、活性酸素・advanced glycation end-products (AGE) が取り上げられ、追及された。実は、これらは、発癌や加齢と関係するともされた物質であったのである。とすれば、最近のように、比較的大分子量物質にも除去効率の高い膜を使用する血液浄化の繰り返しが発癌を抑制し、加齢現象の発現を遅延させる可能性はないであろうか。

一方、デトックスとしてのアフエレシスは、逆行的に考えると、1990年代に始められた高脂血症をもつ下肢閉塞性動脈硬化症患者に対する LDL アフエレシスですで行われていたと考えられ、下肢の疼痛の軽快・潰瘍の消失・歩行距離の延長などの効果は、当代

的に考えれば、ヘルシー・エイジングにも貢献する効果であったといえるであろう。“先生！これは奇跡・神業・天地がひっくり返った”などといった3人の患者がいたことを記憶している。ほかに、“頭がすっきりする・明瞭になる”, “気分爽快になる”, “やる気がでてくる”, といった患者もいた。比較的最近になって、認知症を対象として意識し、あるいは、健康状態の維持・向上を企図してアフエレシスが行われている。演者は、予てから、この方面の展開に興味をもっていたので、仮説として有効である可能性の根拠を考えてみた。

肝硬変の犬の肝切除をすると、再生する肝組織は肝硬変のない正常肝組織だという。手術は、基本的に正常組織が再生することを前提に治療として成立している。自然治癒能の応用である。自然治癒は、神のなす業。われわれは、それに“お手伝いするだけ”であると考えられる。当代医学は自然治癒の機序については関心を持たない。

仮説であるが、“軽微な障害が生体に加えられると自然治癒能が賦活され、自然治癒が発現する。その障害の程度が適切ならば、治療として認識される”。たとえば、超微量の毒性物質が治療効果を示すというホメオパシー (homeopathy)、軽微な筋肉の損傷をともなうスポーツ・加圧トレーニング (血中成長ホルモンの増量)、オゾン療法、そして鍼灸・指圧・マッサージなどの多くの伝統補完代替医療と呼ばれる手技・手法。アフエレシス治療は単なる除去療法ではなく、自然治癒能を賦活化しているのではないか。ほかの血液

浄化法よりその効果が顕著だとすれば、酵素・ホルモンなどの大分子の蛋白質などの除去・喪失が刺激となることに意味があるのではないだろうか。結果的に、ヘルシー・エイジングに効果を示すことになるのではないだろうか。

*

*

*